明治二十年三月七日山路清交付

心教述義序

自古聖人授人以精神而
不求其實者也我丸
山先生長伊藤教亞說之精
研研思力行之妙
矣嘗痛世之有學者秘
流雜亂失其旨趣生
之學理及自修之如聽於教

明治二十年三月七日内務省交付 1057

宮内省圖書寮藏

義序

抽於爲醫之精神而
求學者之過。我丸
山茶會長坪蘇教正。說之精
研研究。爲我國力世之人
矣。予嘗病其法之有當秘
流雜亂。要說正理。使生
之學理。及自修者知解於教

心學叢書

佛氏無佛主宰之權說當一種的法法法皆眞實理明心平直明明。種種說人人大獨。豈無說定性性制。時期寂寂靜靜神。無能寂寂極此寂理。

某嘗言圖教正。如文文與

乎其說老圖空空畫畫不獲圖按漫無都法法成佛教正之道神焦思性靜神之道

明治十九年第一月上旬

宮本三省謹撰并畫

帝國圖書館藏

天生地生　海山生

權大講義齋藤福太郎
大講義漆原勇治郎　輯

此の天生地生海生とも天は化成し地は化成し海の化成しと云へるとゐて生とい物の化成し謂ひゐし て則ちうまるゝと訓ど神典ゐ出ゝ神聖を其中ゐ化生と云ふゐ同ど又伊諾伊冉の二神ゐ大八洲國及び山海草木神人等の類ゐ生ミ給ふと云ふゐ同どきな 我教專心一意崇め敬ひ奉る處の造化參神即ち大

元父母は神徳高恩とゝりかたとは尊師の平素教誨
ふよりて知らるべきとかきども此天地海と云ふ三
ツの物は化成し大原とも知らざるを信心の肝に銘
するとの深うら祢ぞ殊更に天生地生海生との三ツ
は掲げ人々に諭示されしものなり
夫れ人は天と戴き地に住居し其土地と河海等よりて
生ずる物は以て其身を養ひ今日吾人の生命と繋ぎ
光陰を送ると云ふ　天神の恩頼は誰々も弁へ居れど
も此の天と地との陰陽二氣は化成して人と云ふ形
體となし　大祖参神よりて玄靈とたまはりて靈魂と
なし四肢五官を統宰する奇異き靈妙と具へて萬物

の長となり天地間曾て増減なき河川流水等の逝て
窮まらざる水素を熏蒸して循環運轉する等の環海
といふ物は為りは其土地々々に生ずる物の有無を
相通し彼此互ひに日用の物品は差支なからしむる
と云ふ功用の有難き天地海は賜物に至りても知ら
て居る人の多のりなむよりて其道理と世俗の耳
に入り易きやう左に あぐるこそ太古天地はいま
だ剖判ざる初りは渾沌たること鶏子の如しとて雞の
卵は如くあり其中に化生せし神と　大祖参
神と云ひ高天原といへる渺茫さる幽邃の天に在せ
り其後伊諾伊冉の二神　大祖参神の神勅と受け給

ひて天の浮橋乃上に立してのさまゐく底下に豈國
なからむやと天瓊矛を以て指下してかきさぐりまし
うれちて且滄溟を獲
滄溟とも海の如く水のでく此らく事た
然確實なる獨又皇國だよへるものと云ふありもあ
らずがし軌近の至り國の神典にいへるにスと
いへる者地球せ形貌て且佛國の學士ラプラスと盡
一て之と測量し同國の考究するさめ物年心カを
發明しさまべき原人考ふ究す動土多た
骨骸とも折すべき考石の類工球流物者も地
為すよりてこの考ふ石の工其結晶し或重
るにたき云へり類其流動さり層球知
其矛の尖頭より垂る潮凝て一ッ島と為れり
是妙乃其矛を鐵氣の收斂力と潮と大祖參神凝固の徳化
微乃致る處と鐵氣にて泥土と潮と別れ古今と一身に體中の
なる皇國の人と他邦の人常に鐵氣を強健なる
猛なる皇國人の衆常に其鐵氣を吸して健ぎる
筋骨諸波謂彌滿り
さる骨か諸中にあり

是を名けて磤馭盧島と云ふ
神代巻口訣に曰く磤馭
盧島は自ら凝る島なり
淡路の西北隅にありと此説よく事跡らのなへりり
疏によれば淡路洲の西南すあるか島具さふ今此名と纂
るとのなハ恐ちくハ西北の書諺や神ふべし又ハ得
言開闢以前此総号なりといへるハさる合一者よ洲
り出つる新義にして只理屈ふわ原儒事跡攸廢り
る且つ淡路の洲中に是磤馭盡人島事者國所名つけせ
く處あり旧事紀に磤島後生好處よのら作かるた
滴夫を事紀のに磤盧る二むる産あlず瓊矛べ
冊歴此潮お處づう島凝去き神さのおるてまいの
洲二神よるべ此神ば故よ神代巻磤こ盡島ぶ伊
潮沫と凝る混すの處ら凝去代巻よ取ま用お大伊
雛よ凝混すの處らな故き舎人の處宇島ひよハ
ふこ見る出のさ宇あ神る代巻る産解と用大び
路日向出るべ宇とな迹等遍歴諸王事見る諸ハ
しく吟味の雲き等にり總多ふ疊親註了と尋ひ給
取沙汰し雲等さ神代理のl神世上て事書物孫談
人な其に諺歌地ら人馬辨へず只名遺跡拝謂l寳姿
其地其諺場到人ら居か岐物の勝情知跡簡難ち心其
境よいナりて了於眞よ耳目り觸をおの心づうち神

よ徹透して言語ふべからざるは妙境にして言語ふべからざるは妙境なり冷暖自知の妙境必らず其場よりして尊師の言に信ぜらるるときとかしを

二神ハ於て彼島に降居てたゝよへる國嶋海山に修理固成ふしたまふ是を則ち國土の起原ふして大きなる大八洲及び施て琉球朝鮮支那天竺と謂ふる亞細亞ハ諸洲凝固し其後歐羅巴洲ハ及び遂ふ五大洲ともふ成竟りて海陸正しく區別したる一地球とハ名ふるるのかり偖是ふより天地位しとて天地ハ分界定り萬物育すとて皆ふ天地ハ二氣を稟て人間草木禽獸魚介の類近此土ふ化成る樣ふかり大海ふよりて有無を相通し初めて人間世界今日の

ものさき成爲すふ至きり故ふ萬物ハ天ふ基き整齊安置するものふて就中人ハ呼吸ハ間ふ其氣と身體ふ流通し天の陽と含て靈活ハ元氣とし朝暮地ふ生そる處の五穀と食し地の陰成含て其形體と養ふ是ハ天地の氣を稟て化成し所以かり且つ形化の原一度開けしよ至父祖の氣血分布變化して子孫ハ身とるきハ乃ち父祖の身ハ已きゞ前身よして子孫ハ已きゞ後身かり故ふ　大祖參神を大元父母と云ひ萬乘至尊を皇統と仰ぎ奉るとなり而して天造といへハ地造海造も固より含有しのるとるれとも尊師の教諭たる丁寧深切一ふして足らす彼の日月星辰

社動行一定光輝放ち天空ハ懸りて間斷障碍なく宇宙を旋回するが如きも其妙舞動なる容易ハ人智を以て窺ひ知り得べからざるべし斯の若き遠濶廣大なる天上社事ハ姑く擱き吾人社親〻く近接する處の國土ハ就て推論〻一定の意思を保さしめむと欲してなり

凡そ我う地球上即ち國土社千般萬様なる光景形體ハ勿論各地方ハ互ひハ其産物と異ハし各水陸ハ互ひハ其生物ハ異にするハ如き其目擊する處一様ならずと雖ども其實皆ハ人間生養社爲めハ整齊ならざるもなきかり喩へば水陸原野山谷河川等社如き相錯雜するが如しと雖も互ひハ其成章を爲して各々其區別あるも則ち整齊たる所以ハして　天神社吾人生養活動の爲りハ整齊安置せしらきしを毫も疑ひと容る可らざる處なり且ツ天生地生海生の成蹟と分持ち人世必用の三大要と具備する決して偶然無意社事ハ非ざるなり必らすやそと創造ましゝせる元始あると必然なるものなり夫き天生とも水火木金土の五元も固よりなきども最も悟り易き比喩ハ擧んれハ飛禽走獸六畜多蟲も勿論蠢爾たる這土の小蟲ハ盤根錯節たる山野原林社草木ならびに花簇叢中の炬霞と吸ひ雨露ハ濕ふて花と

開き實を結び鬱蓊參差緑芽翠葉の粲然るもの或
は金銀寶石白璧瓊琚等天然に生養成受て生ずる物
と天生と云ふ就中五元の中にても水火の二つは最
も親〳〵其功用成知るものにして抑火は迦具土
神に化生ませる清淨の潔火に始り水は水波賣神の
化生ませる潔白に水華に始る者にして伊諾伊冉に
二神此國土に修理固めらるゝ時泥沙潮水と泌別せ
らるゝものゆへ甚だ惡水かりしを　皇御孫降臨し
のち天牟羅雲命を以て　天神の許へ仰せ遣はさる
高天原の水を玉盞に盛て國土へ持來り日向の國高
千穂の宮ある天忍井に移したまひ其後此水を丹波

に比沼の眞奈井に移し再び伊勢に移し遂に全國一
般に移し給はしかり今の世に迎へ水として良水を盛
て天水と祈るをおど則ち此古事の推移り來りしも
にかり斯の如き皇國に水は清淨潔白なる天水に成移
されしものゆゑ其を飲料に供して生育せる處の皇
國人の音声自然に清朗雅調なる此等天生の著しき
ものにして此水取の事は大同本紀と始め其他の諸
書にも委〳〵見へたれど此には畧きぬ偖亦地生と
は　天孫降臨の時　天神より賜へり五穀養蠶は
勿論蔬菜綿竹水實草菓の類ひに至るまで國民の耕
耨培養して陸田種子水田種子とせる一切に植物生

産と云ふ就中養蠶のとゝ高天原ゐて大宜津比賣の神繭を生ー給ひしより養蠶の道起り忌服殿ゐて天織女ゐ神衣と織しめ給ふより衣服ゑ製をる道起をし　天孫降臨の後ち天日鷲神ゐ命て由布と楮布とを阿波の國ゐ種藝しめ給ふ之を阿波の國ある齋部の元祖ゑり即ち今の麻植郡とて一郡の名ゐ殘り居ると漸次ゐ繁殖せし確固ゑる證據ゑり由布とハ今の麻ゐ楮布と云ふ今の穀ゑり其後天冨命まゝ阿波の齋部ゑ分ちて麻穀ゑ東土ゐ種藝しむ即ち其地を總と名づく總とハ今の上總下總の地ゐして又ふさと麻の古名ゑるものゑり又其郡の名を長麻及び細麻由布木と唱ふ皆ゑ其國名郡名ゐ瞭焉ゑる證據ゑるとゑり長麻郡ハ今の安房國長狹郡ゐして細麻郡ハ今の下總の西瑳郡ゑり而して由布木ゑ今之を前條ゐも縷述し通り地生海生とも結城ゑり ゐ其本原を云へゑ皆ゐ天生物ゐ含有をる所以ゑるものゑり偖まゝ海生とゑる鯨鯢細鱗魚介海藻珊瑚蚌珠玳瑁等の自然と海中ゐ生をる類ゑ勿論ゑきども殊ゐ此成蹟ゑ分持てる大海ゑるや天地間の水分を循環運行をる一大本原ゐして地球上河川流水の間斷ゑく日夜海ゐそゝぎて落下るゑ如しと雖も又蒸昇りて雨雪降露とゑり再び地ゐ降りて其土ゑ滲漉しまゝ河川流水の原素とゑる等最も海生ゑ功用ゑるのゝゑからを流水ゑ常ゐ其源を泉流ゐ發し其泉流

聚合して小川となり其小川再び聚合して江河となり
是此の江河より海口に注入して大海となるが如き
決して無意にして流るゝものにあらざるなり是を
又人間衛生上の妨害となるべき地上叢藪谿谷間の
腐敗爛碎物を運搬し去るものなり且つまた海水の
蒸發力は空氣を和して大地上の氣候を定るの効力
あるものにして或ひは濕潤にして暖和となり或は
乾燥にして寒冷となる等實に大功用ある物なり而
して此の大功用あるとは方今文部省の御藏版なる
百科全書と云へる小學生徒に教へらるゝ書物に詳
悉載せあるが此處には畧きぬ畢竟此の如く大海と

なるべき物の小川泉流之を大にしてを數百里なる
も又小にしては小兒の掌を以て遮り得べき涓滴の
水も共に氣候風土の本となる大功用を有するもの
にして土地を豊沃にし原野を灌漑して措ざるもの
なり総て此等の三生物なる人間世界の利用厚生に
緊要なる物と人情の歡樂に適合するとの物なる論
を俟ざるなり四時大陽の光線を下して温氣とあさへて
靳惜なく保存成養せしむると恰も慈母の其子を愛
育して歡樂を得せしむるが如し是を他の謂ふるに
非ずして　日神の著るしき恩賴を施して吾人に蒙
らしむる處を明晰瞭然からしむる所以なり豈一塊

の大陽頑然情かく國土に照して天に運行するものならむや　天神の恩賴痴愚矇昧の者と雖も解悟識認せらるべきとかり且つまゝ其人情に歡樂とあゝふるが如きに最も　天神の意を用ゐ給ふ處にして徒に人間の五官を悅ばしむる爲めのみならず是人間に自ら其五官を用ゐて漸次に天地萬物の理を悟らしむる樣かさしめ給ふものかり蓋し人未だ嘗て珍らしく心に歡樂に念を發するが如き新規の現象に見聞する時は意中自ら樂んで止ず其新規の物に希望する念に生じ勉めて其理由を考究せんと欲するものかり是人心の智識意思として天地間の萬物と日に相接し月に相關せしめて以て其智識に進歩せしむる所以かを加之人に人情に感動と云へる感憤發起の情存する故に之に適應する顯象物體とあゝへ自ら其感情を起させ以て終に大祖參神の宇宙に間に充塞する萬類を主宰まし給す道理と天地海を創造かし給ふ無涯無疆の　大神に微妙靈德に悟を感銘する樣默察省悟させんの爲めかり而して既に默察省悟の心あるときは天地間何事に其教へあらざらむ日月即ち日神月神の日夜燦爛玲瓏たる光輝を發して吾人萬物を照させ給ふは勿論降露は地を濕して四時浸潤の澤を失とす

春時は梅櫻桃李の麗朗和煦の天ゐ色と競ひ襟懐を舒暢するの好天氣なり夏日は修竹樹蔭ゑ人心と爽快からしむるの凉風あり秋時は人目を娯悦せしむる木葉金黄の佳色あり冬時は四隣皚々玉塵條氷封ぞるの幽賞あり是等最も著明かる天然無量の仁恵ゐして畏敬恭粛の念爭てゐ感發せざるものなけん然りと雖も四時の循環日月運行の如きは遠濶廣大ゐして偶然ゑ出るが如き感あらんとを推量らは吾人の親親日夜接近して生命と養ふ處の衣食住の三ツは三大恩と尓し感情と起させ肝ゑ銘とる信心の捷徑と得させむとて尊師のゐくゐ其末ゐ就て十分の道理と諭し其本原の天理と知らしめむ為りゐ天生地生海生と掲げられし所以なり

心教述義卷之四

權大講義齋藤福太郎
大講義漆原勇治郎
編輯

丸山社畢ハ清志んをすれ
梅や櫻の芳そ多のしき
御卒桒生恩心農長海山
母ゝの一字人ゝ社志んとおりふべ
かうれ所かうゝとゝ所あきゝか

御卒とは大祖參神を指さるとゝふて教祖の説をた

る如く御神を南天社元ゐまして宇宙を知ろしめ召遍く恩頼を垂させ給ふと云ふこと擬して尊師の如此を掲げらるるかり御とハ尊み敬ひたる言詞ゐしてをさむると訓し四海を統御をる社義かゑ来と八扶来國社名ゑ負ゐず我ゐ日本といひしてかゑ生無心とを総じて物を無より發をるものかりと云へるとゐて生靈も心體も原素虚無よゑ生ぜる物ぞとかり夫を人社此世ゐ生るゝや天地陰陽の氣といふ目ゐ見えぬ物より生じて五體をかし心と云へるものを最初ゑハ其形體と確認を能ハずと雖も後ゑ至て其心より發しさる功用社種々の事業と成をゑ

至てハ始めて目ゐも確認得るものかして譬喩を火氣の金石中にありて火社化成べき氣色の更ゐ見えされども物ゑ觸て而して後ち其形體と現を如く又雨や雪の原素とかる水気の蒸外る頃ゐハ衆目と一點の遺ぎる物のなからざるども其氣社凝りて雨とかり雪とかるゐ至てハ始めて其形體を現すと一般かる物ゐて蓋し無を萬物の本ゐして道の體かをいなり農長とハ農を國の本ゐして緊要の物かりと云へる義かり長を長ぜるの謂ゐして吾邦此農事ゑ長ぜるとハ　天神の御心と用ひ給ふ瑞穂國たる土地の膏腴ゑ因るとかをハ其恩頼ゑ報てんと人々最第一

ゐ此農業を勉め励まゝ成ぬぞと云ふとかり海山とも海も山も土地の膏腴ゐつまて生産物の夥多かるも勿論四疆ともに天嶮の堅固と為し吾人として外冦の憂ひなく安居せしむると實ま御神の賜物かりと云へる義かり偖さて南無と云ふ二字の字躰ま至りても容易ゐ測り識るべうらざゐ靈活微妙の意と含て居るりのゐして抑此の南は字も人の両手ゐ廣げて立ちさるに象りさるものかり夫も人の此世ま立つと云ふゝ心術品行と脩め孝悌忠信仁愛の行ひと厚ふし父子夫婦兄弟より人間の交際及び厚生利用の道ゐ通じ家と立て生ゐ遂ぐるの道ゐ明らかゐと云へるとふして論語ゐ謂ゆる三十ゐして立つとあるゐ凡そ事物は道理ゐ曉り一身獨力と以て道と行かひ得らるゝとふして則ち是をかま蓋し人の世ゐ立や幽邃玄明かる南天の元ゐ鎮坐まし給ふ大祖参神は恩頼かるもの故ゐ自然と人躰ゐ象るが如き靈活微妙の一字ゐ現出せしものかるべし又無は字も人の安坐したるゐ象りかるとのゐて總て無形として有形をらしむるゐ考按をるゐあるものかま而して考按をるゐも必らず安坐して頭と傍向し四魂ゐ鎮め心と平らかませさ進び充分の考按ゐ成さるものかり佛國の醫學博士何某のとろ世里府の生物學協會へ差出せし書ゐ見るゐ人

安閑そるとき血脳裡に通ふを最も自由なるが如し巧思妙案は浮らと出るを都中寝床にあり其思想を練ら考按と熟せしりたるものの考きい畢竟とそれ然そども頭に雑こかるものとりと見えさり連續せる思慮を變じて龍つこと数十年此理と感通せらきしれ貫よありのさ事りそ

尊師のおもひ先さ

故に其體に象りしものかりと無の字の妙を示めさ

もしかり且つ夫き上古を跪坐跙膝と云ふと社かうりし事に両足を組合して坐しさ後のかり後世俗こおき伏胡坐伏為と云ひ至つて卑しむやうかりあ伏さきども是きまさ漢國人社社と尤ふせし伏被髪左衽せんかと卑しい風の流き來で天神の太古衽伏左りふせし伏知らざるの類からむ今も

束帯とて皇國社朝服と着らるゝや両足伏組合して必らず安坐せらるかり尚通常無の字伏無の字ふ掲げらきしとる次の章かる和歌社解ふて委しく説べし

丸山社峯に清き心なすれも
掲や稲社峯そ[illegible]む

丸山の峯ふとる丸山教會ふ祭祀奉る處の御神と云へるとふして峰とる山みと云ふ縁ようよりて峰と承るかり清きんとい清心潔白ようと云ふとふして惡

き心微塵も持ざるとなり松もとる松るいつまても千歳社色は帯び嚴霜冽日草木枯死をる社候と雖も屈せず撓ます常盤堅盤ふ鬱葱と葉末の端までも色替へで操の正しきものなきい人も其如く専心一意怠らす撓ます信心をすからば梅や櫻の如く芳馨馥郁妖艶爛熳と春光盎然たる好時節ふ出合ひ人々ヨも愛いつくしまる好花の咲て世の中社人ヨ尊ミうらやまを我身とも樂むとをいいるるそと云ふ事かり

世の一字人々の志ん　おりふ紀まるくをこ　ちうがなきこう

此の和歌を愚の字ハ解ふして乃ち愚の一字ハ分拆すをば上ふ位をるを人と云ふ字ヨ中ヨ位をるハ四の字をり下ふ位をるハ心と云ふ字をり抑人を天祖御神より靈魂と云へる靈妙不測ふ御魂と賜るものヨて且つ此の御魂ふ幸魂奇魂和魂荒魂てふ四つの功用ハ含ミ居るものヨ人を総て此の四つの靈魂の功用と心ふ銘ゝ我ゝの心と為せよとのとふて人四の心と解をしかりをゝ此なこのくもあうあきらうとハ人間一生社中ふ此の靈魂の功用ふよりて成程我ゝの身を　天神よりを賜とりゝ奇靈かる處ふるものかりと云ふと社あきらかふ悟り得る

ものぞとかり

夫を我が日本の地を　太神國土と鎔造かし給ふ且殊更に神慮に用ひさせたまふものと見え北極地に出ること三十度よりの四十度かる間の正帯に位し寒暑其中に得土地を南北に陟を東西に跨り四方を海と環らして天然の嶮固をかし膏腴豊穣にして草木繁茂し菓實よく熟成して金銀銅鐵に勿論錫鉛の類に夥多かる一切の鉄冶あること就中豊葦原瑞穂國たる美称に負ひて世界最第一かる粳米の産出多く膏澤充分かること地球上絶てかき處かを試に地球の圖と地理土姓の書と取りて我が國と他の邦國と比較して之を觀に氣候に和適風土の正中山水乃秀清かる其比に觀るべき者あらん哉是を　大神の神孫として此土に主らしめむと欲してかり吾人に成して此土に安んせしめむと欲してかるを決して疑ふ可からざる處かり而して地球に圖とへ彼の渾天儀と云ふ丸く球の如き形體を拵へ全地球上に國々に分りて付けたかを紙に摸寫して東半球西半球と観易き様に為せし者かを又地理土姓の書と萬國の寒暖氣候より土地の性質地味に美惡を勿論豊穣荒蕪膏腴不毛等まて詳悉に明記しかる書物にして一目瞭然さらしむるものなり蓋し渾天儀と

ハ全地球上の中心地軸さる北極南極と云ふ天地間少しも動うぬ處よを經緯と云ふ縱横の線と施して三百六十度ゟ割出し此の三百六十度ゟ國々ゟ割付ける者かり而して大抵此の一度と云ふハ里數三十里餘ゟ當るかり此の如く度數ゟ定めて又熱帶中帶寒帶と云ふ區別と立てさる者ゟて謂ゆる熱帶とハ印度の如く炎威赫々殆ど焦ゞ如くゟして萬物適宜ゟ濕氣と失ひ乾燥して生育と妨ゞるゟ如き土地と云ひ寒帶とハ四時冬く氷雪堆積して地面と埋没し萬物の生育ゟ適せざる土地と云ひ中帶とハ我ゞ皇國の如き氣候の和適風土の正中と云へるものか

り且つ此の地球ゟ圖地理土性の書物等ゟ他邦人の大地球ゟ舶ゟて乘廻し實地と測量しく者を處冬く皇國ゟてゟ西川先生ゟ天經或問日本水土考等其天文地理の書の最初かをども是を又和蘭人より聞き傳へて著さをしものかり抑世界萬國いづをも自國と以て上國と為さゟとれし然るに他邦人の著を處ゟ因て以て皇國の美と知るを豈　太神鎔造化成の殊別かる所以ゟらずや實ゟ自國の私称ゟ非ゞして宇内の通論萬國の認許をる處明瞭判然さるものかり將亦天地剖判よを　天孫降臨の事蹟等ゟ至りてハ年代の遼邈久遠かると其理幽邃玄妙ゟして容易

く領會しのさき様思惟せる者も在るべきかもと是も亦決して幽邃玄妙年代遼遠のとゐ非さるかり如何とかをゞ前文にも已ゐ説きし如く人も天地の気と太神に玄靈と受けて生を出る者かをゞ其心性も天地の心性と同じく其神靈も太神の玄靈と同じくして神心感通をる天真の心以てすをゞ何事も知り難きとゐあらざるなり故ゐ尊師も吾人靈魂を鎮め心を清くし静坐黙考かす時も其冥々の中ゐ大祖參神鎮坐ませ給と以感通し宇宙に間に萬類を主宰ましはすの道理を曉り得べきぞと教諭かさせしなり且つ又天賦に良質あるゆゑ淳樸質實ゐして清潔を好み神を崇み義を重んぜるとも皇國ゐ生を受けたる人の教へぜして自然に存をる處かり已ゐ太古ゐおもゞの人に道と云ふとも忠義孝貞節烈士氣かど云ふ名義稱呼もかりしかど其行為の天道に違ふ様かる者のかるのゆへかり然る以後世ゐ至り儒佛の道皇國に弘まりてより其道の蔓延をるゐ從ひ太古の風俗漸次に薄らに且つ昇平年久しく人々遊惰ゐ馴を之以矯正する者かくして習慣浮華ゐ靡き徒ゐ博覽強記以て學問の專務と思ふ様に かりゆきおをを以て禮義廉耻の四維を張るべき志に以發起せんとをるゐ至りしをゐを大ひかる謬り

かり又農を國の本かりといへど漢土の孟子と云へ
る書にある如き民を貴しと為を社稷ときに次ぐ君
は輕しと爲をと云ひて土神穀神社社壇かりとも若
し旱魃洪水などの變頻りふありて之を禦捍とから
ずは其社壇を毀ちて去を改更或ひい國君の民を治
るを能ずず暴逆ふして民社心に違ふを矛けきい明
君出て其位に代るかどのことにいあらずや
抑我が皇國は　皇統と天津日嗣といひ久方の天社
河原ふ神集ひまして神籌はを　瓊々藝命を降臨
したまひるるにて　天皇の皇統を開闢の太古より
一系ふして擾亂たまはざると昭々として明晰瞭然

たるものかり只々農と重んぜらるゝとを天熊人と
いへる神乃五穀と取持て高間の原に至り　天神ふ
すゝめ奉りしるとき　天神喜ひ給ひて是物を顯見
蒼生の食て活べき物かりとのさまひたまひ天の長
田狹田ふ種させ給ふのち　天孫の命ふ降下したま
ふと北齋庭の穂を采て授け給ふ此の若く嘉穀を貴
ひ給ふにより　皇國に農業をとる人とおそれたう
らと云ふおかことい大御と云ふ義ふしてたうらい
則ち寶かり且つ五穀を人の生命を養ふ物の第一か
るを以農い國の本りと堅けをば國安しと云ふ所以
かを又我が日本をさして扶桑國といひしとい吾邦

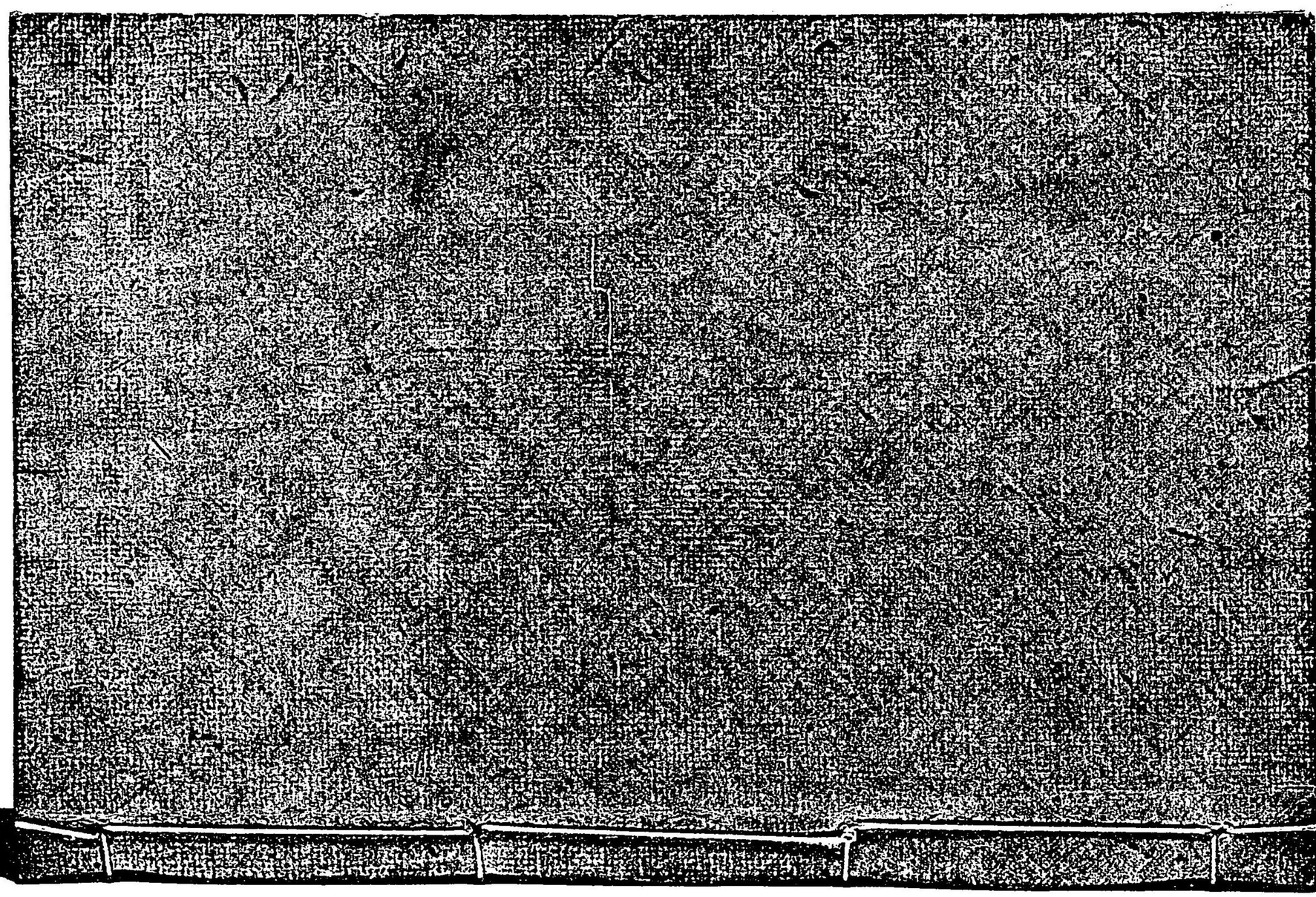
太古より大海とも蔽ふ程なる桑の大木數多あり異域よりも見るとと得因て異域人の扶桑國と名づけ初しかり蓋し歴木辨の序にもある如く吾邦ハ土地豊沃かるゝ異邦ハ超越たまい人少く田畠も多うらざる頃ハそのその膏腴たる處の生気おのづから地中に盈溢まて世界ハ希かる大木とも多く生繁さるゝ人員漸次ハ衆くかりて地氣を稟くる物蕃殖をるハ從ておひ〳〵ハ槁ゆたまさい殊更ハ斫せかとして残るもの少かくかりゆたしものかるべしさまを景行天皇の御宇筑紫に御身みづから行幸かし給ひ御木と云ふ地に行宮を造らせて留居さまふ此地ハ大ひ

かる桑樹ひのり其長さ九百七十丈朝日の暉ハ杵島山を隠し夕日の暉ハ肥後の阿蘇山を覆せり土人この樹を神木かりと唱ふるより其地の名とも神木と呼び〳〵とぞ然るに此樹おのれと槁て僵ハけまど其邊人家もあらさりけまば人畜の類を損傷をるを礼かりし而して此對の上を行ぞ崗を超川を渉るの勞もかく〳〵て便宜かりしかを土人專らこまを踏て往來せしにより神木の樟橋と呼しかりとまを太古來の大木あり〳〵證據かり且つ此の舊跡を今の筑後國三池郡高泉村に存在せり土人とり〳〵土中より埋木とかり居るものハ堀得ると云ふ又仁徳天皇の

御宇筑紫に斬せ給ひし樹の影の旦日ゆゑ淡路島ゆ及び夕陽ゑハ高安山と越さりと古事記ゆも見えま
さ肥前風土記ゑも大木の朝比日影ゆ杵島郡の蒲川と蔽ひ暮の日影ゆ養父郡の草積山と蔽ひさりとい
ひ播磨風土記ゑ明石驛駒手御井楠ゑ朝日ゆ淡路島と蔭ゝ夕陽ゑハ大和島根と隠ゝと云ひ其他近江國
栗本郡の栗樹ゑ周圍五百尋ありゝと云ひ異域迫も見へ渡りゝ扶桑樹ありゝや疑ふ可からず然ハ太
神の六合ゆ照臨まゝゝて吾人と覆育ゝ給ふ仁德廣大なるとと感銘ゝ神心息らず鴻恩ゑ報ひ奉る
べきと也

明治十九年三月廿六日版權免許
同　二十年　三月　出版

著述者　神奈川縣平民　藤原勇次郎
相模國都窪郡山田村　三十六番地
同　同　森藤福太郎
同　同　國高座郡藤澤村　二百五十四番地
同　同　伊藤國吉
出版人　東京芝區宮宕町二丁目拾貳番地　高岡惟長方寄留



750